

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1292600077		
法人名	株式会社ユニマツ リタイアメント・コミュニティ		
事業所名	やちよ台ケアセンターそよ風(なごみユニット)		
所在地	千葉県八千代市八千代台南3-2-32		
自己評価作成日	令和4年2月27日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/12/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社アミュレット		
所在地	東京都中央区銀座5-6-12みゆきビルbizcube7階		
訪問調査日	令和4年3月25日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

季節を感じて頂けるように四季折々の行事を多く提供させていただいている。又、一人ひとりの力を活かし、皆で協力し生活している。家族、地域の方々と支え合いながら暮らしていける温かみの有るホームです。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

長引くコロナ禍の影響で、コロナ禍以前のようにボランティアの方をお呼びして交流を図ったり、ホームの行事に地域の方を招いて交流を深めることなどはできませんでしたが、職員間で様々なアイデアを出してホーム内の生活の活性化に努めています。駄菓子レク等を通して懐かしいおやつを楽しんだり、ホームのベランダを活用してみんなでお弁当を楽しむなど感染対策を取ったうえで楽しみの幅を広げています。地域との交流は難しくても、隣接する他法人のデイサービスと合同で避難訓練を実施し災害時に協力できるようにしています。コロナ禍でもできることを全体で前向きに進め、サービス向上につなげています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	会議やミーティングで声にだして読み上げている。仲間を大切にするチームを実践している。	理念の共有化に向けて、毎月の会議時において法人の理念を唱和し、理念に基づいた運営が図れるように努めています。利用者家族にも利用契約時に説明し、家族の方とも共有化が図れるように努めています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域のボランティア団体の方に訪問をお願いしていたが、現在はコロナ禍の為、中止している。	例年であれば手品や琴、腹話術などの地域のボランティアの方と交流する機会を設けています。長引くコロナ禍の影響でボランティアとのかかわりや地域住民との交流はありませんが、コロナ禍の収束を見て交流の再開を予定しています。	地域の関係者等と築き上げてきた関係性が希薄化しないように、今できる関わり方を通して良好な関係が今後も継続できることを期待します。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	介護初任者研修の受け入れを行ない、認知症、高齢者への理解を深めているが、現在はコロナ禍の為、中止している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一回運営推進会議を開催しグループホーム内の取り組み、ヒヤリハットや事故の報告をし意見交換しているがコロナ禍の為、書面にて報告している。	運営推進会議については、コロナ禍の影響もあり書面開催という形で実施しています。これまで参加頂いていた地域包括支援センター、民生委員、家族の方に議事録を送付し、それに基づいて意見や要望を収集しています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市の担当者には待機者情報を報告し、事故などがあった時には、速やかに報告している。	運営上、相談事などが生じた際には市の担当課へ連絡を入れて必要な指示を仰いでいます。また市からの情報については都度メールで配信され、必要な情報を収集することもできるなど、協力関係を築き運営を進めています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	個々の利用者について身心の状態を正確にアセスメントし身体拘束を必要としない状態を作り出す方向を迫及している。又、会議で研修会を開き不適切な対応に繋がらないように取り組んでいる。	「身体的拘束等の適正化のための指針」に基づき適切な対応を図るとともに毎月のセンター会議内で身体拘束廃止委員会を行い不適切なケアの発生が無い確認しています。さらに3ヶ月毎職員向けに研修を行い意識を高めています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	虐待防止に関する研修会を行っており虐待が見過ごされないよう注意を払っている。		

やちよ台ケアセンターそよ風(なごみユニット)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度を利用している方がいる為、そのケースを通して制度の理解に努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には必ずケアや費用等の重要事項を十分に説明し、理解を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	不満、苦情に対しては管理者が窓口となり対応している。他職員が聞いた場合は速やかに管理者に報告するようになっている。	家族からの意見や要望についてはケアマネジャーが中心となり電話連絡などを通して個別に確認しています。運営に関する要望は特には出ていません。利用者からの意見や要望等は日常会話の中で確認しており、日常生活の中で反映させています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	グループホーム合同ミーティングを開き意見を出し合い話し合っている。職員が意見を出しやすい環境作りを心掛けている。	管理者は日頃から職員からの意見などを聞く機会を設けており、職員が気軽に意見などを表出できる環境を築いています。必要に応じては個別に面談を行い、不安や悩みなどを確認し早期の解決に努めています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	働きがいのある職場づくりとして人事考課、契約更新時、面談を行ない向上心を持って働ける環境づくりを行なっている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	グループホーム協議会を開催しており、センターでの報告を行なっている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	八千代市グループホーム部会があり出来る限り参加し交流を図りたい。		

やちよ台ケアセンターそよ風(なごみユニット)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の言葉をそのまま記録に残し思いを知り、職員間で共有している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	何かが有った時だけでなく普段の面会時に声を掛け近況等を伝えるようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご家族様の意向や希望を伺う機会を作っている。訪問歯科のサービスを取り入れている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	食器洗いや洗濯物たたみは職員だけで行わず利用者様と行なっている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様に利用者様の様子等を、こまめに報告し共有するようにし、ご意見をいただいたりしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	知人や友人の面会について制限すること無く受け入れているが、現在はコロナ禍の為、玄関先で10分程度でお願いしている。	コロナ禍以前は馴染みの美容室に出かけたり、友人の来訪の受け入れなどで馴染みの関係が途切れないように取り組んできましたが、今年度はコロナ禍のため馴染みの場所への外出等は難しいですが、知人の面会の際には玄関先での対応を可能としています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士の会話をそれとなく観察し、職員間で共有している。		

やちよ台ケアセンターそよ風(なごみユニット)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去された方から葉書きを頂き連絡を取っていた。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	個別に話しを聞いたり、面会時などにご家族様から、ご本人が話されていた内容や思い等を伺うようにしている。	ケアプランの作成および更新時はアセスメントを実施して利用者の現状や課題等を抽出しています。アセスメントでは利用者の日常生活動作状況のほか、本人の趣味や特技、嗜好なども確認しケアプランへ反映させています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	職員とご利用者様が話しやすい関係を作り、会話の中から生活歴を知る事が出来る様に心掛けている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々の状況を、記録に残し、申し送り等で現状を共有している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアマネジャーが中心となり、職員が協力しながら作成するようになっている。ご本人やご家族様から、ご要望等を伺い反映している。	アセスメントで抽出した情報、利用者本人、家族、職員、主治医、看護師等の意見を担当者会議で検討し、総合的な意見を踏まえてケアプランを作成しています。ケアプランの進捗については更新時にモニタリングで確認し、支援目標の継続、終了を判断しています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ご本人の様子や、言葉等を記録している。いつでも職員が確認出来、共有できるようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人や家族と話し合い意向に沿えるように心掛けている。		

やちよ台ケアセンターそよ風(なごみユニット)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	民生委員、介護相談員に来所して頂く事で地域情報を取り入れながら安心して生活が出来る様に支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月二回の往診を受ける方とかかりつけ医に受診される方とおり、どちらも生活状況を報告させていただき適切な医療が受けられる。	ホーム提携先の医療機関の往診が月2回あり、利用者は必要な医療を定期的に受けることができます。訪問看護とも連携し連携先の看護師とも良好な関係を築くことができ、医療と良好な関係を築いています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	状態の変化時には看護師に相談し指示を仰ぐ。必要に合わせて訪問してもらえる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中は定期的にお見舞いをさせて頂いていたがコロナ禍の為、ご家族様と、こまめに連絡を取り合い情報共有に努め退院後のケアについては先生の説明に同席させて頂き安心して元の生活に戻れるよう努める。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	往診Dr、家族、事業所で今後の方針を話し合いグループホームでは何が出来るかを説明し同意書を頂いている。	ホームでは家族の意向を踏まえ、終末期まで対応できる体制としています。終末期に備え職員研修の実施や利用者の状態変化時にはホームとして指針を作成し、主治医、家族と今後の方針を検討していくこととしています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に訓練は行っていない。AEDの設置に伴い、処置方法の研修を受け、緊急対応時に備えている。緊急時マニュアルを作成し周知徹底を図っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年二回の消防訓練を行ない、消防署立ち会いのもと消火、通報、避難誘導の訓練を受けている。	年2回避難訓練を計画して令和3年度は5月に隣接の他法人のデイサービスと合同で地震及び火災を想定した訓練、11月に夜間の地震を想定した避難訓練を実施しています。災害備蓄品も順次揃え災害時に備えています。	今後に向けては消防機器(火災報知機やスプリンクラー等)の方が誤作動に備え、装置の止め方など再度確認できるとよいと思われます。

やちよ台ケアセンターそよ風(なごみユニット)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	基本は敬語対応だが状況に応じ和やかな雰囲気の声掛けも大事にしている。	利用者に対して不適切な対応にならないように、声のかけ方は敬語を徹底し、利用者の誇りを損ねることが無い対応を徹底しています。トイレ誘導時や介助中の声かけなどにも配慮し利用者のプライバシーや羞恥心にも配慮しています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	生活の中で表情を読み取り声掛けを行ない、思いを聞き取るようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入浴について決まった曜日は設定しているが、気分によっては入浴日を変更し対応している。又、食事の好みも出来る限り対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節に合った衣類の交換等、ご家族様にも協力してもらっている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ご利用者様の食べたいものを聞き取り希望のあった食事行事を開催している。後片付けも出来る範囲で一緒に行なっている。	食事の配膳や下膳、食後の食器拭きなどは利用者にも声をかけできる限り利用者の力を活かせるように努めています。食事の楽しみに向けては、お正月のおせち料理やホームのベランダでお弁当を楽しんだり、駄菓子レクリエーションなどを通して楽しみにつなげています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分量は毎日記録に残し食事や水分摂取の低下が見られたり、体調等を考慮して、捕食等を提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自分で出来る方は、自分で行ってもらい、出来ない方には介助を行なっている。		

やちよ台ケアセンターそよ風(なごみユニット)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表から、個々の排泄パターンを知り、その方に合った時間で声かけしている。また、自分でトイレに行くが失敗のある方には自尊心を傷つけない様に配慮しながら交換している。	排泄については利用者一人ひとりの排泄のパターンに合わせて定時の声かけや誘導によりトイレで排泄できるように支援しています。排泄後においては所定の排泄表に排泄状況を記録しています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分を多く摂取出来る様に、ご本人の好みに合わせた飲み物の提供やヨーグルトを食べて頂き個々に応じて対応している。毎日体操をするなど規則正しい生活が送れるよう支援している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴日は決まっているが、ご本人が望まない時は変更を行なっている。	入浴に関しては利用者の体調やペースに合わせて週に2回入浴できるように支援しています。入浴中は職員も介助について利用者の状態に合わせて必要な介助を行うと共に事故なく安全な入浴に努めています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	状況を見て臥床時間を設けたり、夜間はご利用者様のペースで居室に戻って頂いている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	排便、皮膚状態、食事摂取、体調や行動の変化があれば訪問診療時、医師に相談している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	出来る事で役割を持ち、張り合いある生活を送れる様、支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望に応じた買い物をしている。	コロナ禍以前は小グループに分かれて初詣に出かけたり、個別対応で買い物などにお連れして戸外に出かけられるように支援していました。今年度においてもコロナ禍のため買い物など外出は自粛しており、その分ホーム内で楽しめる取り組みを増やしています。	

やちよ台ケアセンターそよ風(なごみユニット)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お小遣いを使う時には介護者が支払いを行なうのではなくご自身で支払いをしていただいている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族に電話を掛けたい時には意向に沿っている。LINEのビデオ通話を利用している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に合った壁飾りをし、湿度、温度を測定し過ごしやすい空間づくりにつちめている。	季節に合わせた装飾品を掲示するなど季節感が感じられるような工夫を取り入れています。日々の掃除の徹底や感染対策として手すりや床、リビングのテーブルなどもこまめに消毒しています。感染対策として換気も定期的を実施しています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	余暇時間は、お好きな場所にて過ごせる様、見守りを行なっている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家具、寝具等、使い慣れた思い出の物を持ち込まれ居心地良く生活が出来る様に努めている。	居室内は日々の掃除により衛生面に配慮しているほか、これまで使い慣れた愛用品の持ち込みを可能とし、家具類のレイアウトについても本人や家族の希望に沿って配置することで居心地よく過ごせるように配慮しています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホーム内は段差無く、手すりを設置している為、移動が行ないやすい環境となっている。トイレの場所が分かりやすいように記載するなど混乱が少なく暮らせる様に配慮している。		